

2022年2月特別支援講演会

主催：(株式会社) 青少年児童療育支援協会
放課後等デイサービス『フリースマイル』

共催：(一般社団法人)障がい児成長支援協会

～これでスッキリ！お子さんのとらえ方が明確にわかります～
『発達障がい(自閉症・ADHD・LD)

の疑いのある子の支援の仕方』

- チェックリストを実際に使ってお子さんの状態を判断します
- 実態をもとに今後どのように支援をしたら良いか解説します

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 代表理事・協会長

中部学院大学非常勤講師 山内康彦(学校心理士・ガイダンスカウンセラー)

「困った子」は「困っている子」

「困った子だ！」と嘆いているのは、大人の勝手な視点

☆実は一番困っているのは

その子ども本人

保護者・指導者として、困り感に寄り添う姿勢が最も重要！

まず子ども理解をすすめていくために

病院であれば . . .

血液検査と尿検査をしますね。

☆まずは、専門機関へ

子どものアセスメントを行う

病気と同じ！ 手遅れは×

早期からの適切な療育が◎

『心理検査の活用』と『応用行動分析』

本来判定に使うためのものではない

☆K-A B C ・ K-A B C 2

☆田中ビネー

☆W I S C III ・ W I S C IV

☆新版K式

なぜこの子は顔を上げないのか→



個の知的特性等を把握し、その高低やバラツキからその子に合った支援を考える材料にするもの

判断・診断の違い

『診断』 → 資格をもった医師が行う

『判断』 → 専門家等が見分けるもの

通常『インフルエンザ』や『コロナ』は、
“陰性”か“陽性”かで、はっきり診断

しかし、“発達障害”は、グレーが
多く存在する。

※では、このグレーをどうするのか？

家庭でも簡単にできる『発達障害』の判断

☆文部科学省は、通常学級にも6.5%の発達障害の子ども達がいると公表
別紙資料のような調査を行った

※家庭でもできます（この後紹介）
お子さんの実態をチェックしましょう。

○ADHD? ○LD? ○ASD?

ぜひ、やってみてください(大人もできる)

お子さんはどうか？ 自分はどうか？

判断基準は、平成14年度に文部科学省が全国で実態調査をしたときの判断基準をもとにしています。

学習面はLDに関するチェックリスト(LDDI)、と(LDI)を参考、行動面(「不注意」「多動性—衝動性」)は(ADHD-RS)を参考、行動面(「対人関係やこだわり等」)は(ASSQ)を参考にして作成。

保護者がお子さんの特性を理解する
→通常級でも受給者証の取得は可能！

※特に不登校の多くは発達障害が原因

○自閉症スペクトラム障害（ASD）

→◎自閉スペクトラム症

○注意欠陥多動性障害（ADHD）

→◎注意欠如多動症

○学習障害（LD）

→◎限局性学習症

※今は病気ではなく『タイプ』というとらえ方

例えば・・・“肥満”で考えると

『肥満ではない』 → 『肥満傾向あり』
→ と診断された場合は・・・

- ① 糖分や脂質など食べ物気をつけましょ
- ② 1日1万歩以上歩くなど、運動をしよう
- ③ 夜8時以降の飲食は、止めましょ 等

“傾向あり”でも取り組むことは肥満の場合と同じですね。ということは

※ “発達障害の傾向がある”とわかったら行う手立ては同じなんです。

“療育”とは何か？

医療＋教育＝療育

○定型発達のお子さんは“教育”のみでOKですが・・・

○特別支援が必要なお子さんは“医療”も必要。→投薬も必要

→※医師の指導を受けて

※病気で考えると、37度5分なら・・・

しかし39度や40度になったら医療ですね。

受診・相談する時期を逃すと後が大変！ 子どもの荒れには、大きく二つの波がある

○第一の波は、小3～小4

原因①ギャングエイジ ②10歳の壁

○第二の波は、中学校一年生

原因①思春期 ②中学校特有の環境

→第一の波は、なんとか乗り越えることができるが、第二の波は大変！

最新の研究結果から療育を考える(1)

自閉症の子どもたちは相手の気持ちを
読み取ることができる？

「この大人は、自分を受け入れる気持ち
がるかどうか？」を試してくる

◎受け入れてくれそう→大すき

▲受け入れる気持ちがない→大嫌い

※職員として本当に大切な専門的な力は
「どんな大変な子も受け入れる姿勢！」

最新の研究成果から療育を考える(2)

「10歳の壁」とは何か？

定型発達の子どもは、4～5歳で分かる
知的に遅れのない自閉症は、10歳！

まわりのことがわかるようになってくる。

※告知をするにはよい時期と考える

→俺は馬鹿だ！ 死んだほうがいい！

※不登校が出てくる原因となる

叱られる子は負のスパイラルに陥っている

できない→叱られる→自信がなくなる
→やらない→叱られる→ふてくされる
→怒鳴られる→逃げる（反抗する）
→もっともっと怒鳴られる

◆自己肯定感をなくしていく

「俺はどうせバカだから・・・」

「どうせ 私には できないし・・・」

「はじめから やらない方がいいや」

ほめることでよいスパイラルに変えていく

できる→ほめられる→自信がつく→やる
→またほめられる→もっともっとやる
→どんどんできる→更にほめられる
→より高い目標に向かって取り組む

◆自己肯定感を高めていく

「ぼくは、計算は得意なんだ。」

「調理が好きでコックさんになりたい」

「勉強は苦手だけどやさしい子です」

「通常の教育」と「特別支援教育」の違いを一言で表すと……

《通常の教育》

できないことへのチャレンジ教育

※今までのできた自信があるからできる。

《特別支援教育》

できることからの出発教育

※やらせでもよい。まずは、
できた経験を沢山積むことで
自信となり自己肯定感が高まる



子どもたちにやらせる方法(1)

行動を起こすときの条件から考える

1. 楽しい おもしろい やってみたい
2. できる わかる 上達する
3. ほめられる 表彰される
4. こわくない 安全

(例) 宿題をやらない理由と
すすんで取り組ませるためには？

子どもたちにやらせる方法(2)

取り組ませ方の工夫

×親や先生が決める

- ・僕が決めたんじゃない

◎本人に選択させる

○選択するとは本人が決めたこと

○メリットとデメリットを事前に説明

×本人に考えさせる

- ・そうなるとは思わなかった
- ・わかっていたらやらなかった

もぐら叩き教育はダメ パート I

幹を見て、本質、原則で指導方法を考える

□ 厳しくしかること・徹底すること

・ 大人だったら警察に捕まること

・ 人に迷惑をかけること

■ ゆるすこと・ある程度見逃すこと

・ 警察に捕まらない 迷惑をかけない

・ 本人だけの問題

もぐら叩き教育はダメ パートⅡ

幹を見て、本質、原則で指導方法を考える

□絶対にやらせること

- ・ 大人になったらやること

■ゆるすこと・ある程度見逃すこと

- ・ 大人になってやらないこと

保護者・指導者からのよくあるお
悩みについて具体例を通してお
答えします

1. 『相談』はどこへ行けばよいのですか

①病院ならば

『小児発達外来』 や 『小児精神科』

②障害者手帳の発行

『児童相談所』 （地域によって名称色々）

③未就学は市町の療育センター

※役所の福祉課等に聞くと教えてもらえる

2. 「他害がある子」に対する支援方法

①どんな時に他害をするのか

※応用行動分析を行う

②他害が起きる前に改善策

◎他害が起きるようなことは初めからやらせない

③他害が起きた後の改善策

◎本人も他害などしたくないはず

◎本人の気持ちに寄り添って指導

◎相手には、周りの大人が代弁して謝る

3. 「仲間とうまく関われない子」

に対する支援方法

なぜ友だちがいないのか？

×受け入れる子がいない

受け入れてくれる大人を創る

本人より若い周りが悪い！

具体的には、まず、大人の友だちを増やす。

放課後等デイサービスや児童発達支援を利用することが有効（子ども理解がある）

4. 場所によって「できる・できない」 がある子に対する支援方法

×できない事を中心に療育

◎できることから療育

子どもが好きなこと・得意なことから～
“好きこそものの上手なれ”

小学校3年生までが勝負！ なぜならば . . .
しかし、中学校3年生までなら挽回可能
なぜならば . . .

5. 園や学校と連携を取った療育を行うためにはどうしたらよいか？

×保護者だけでお願い

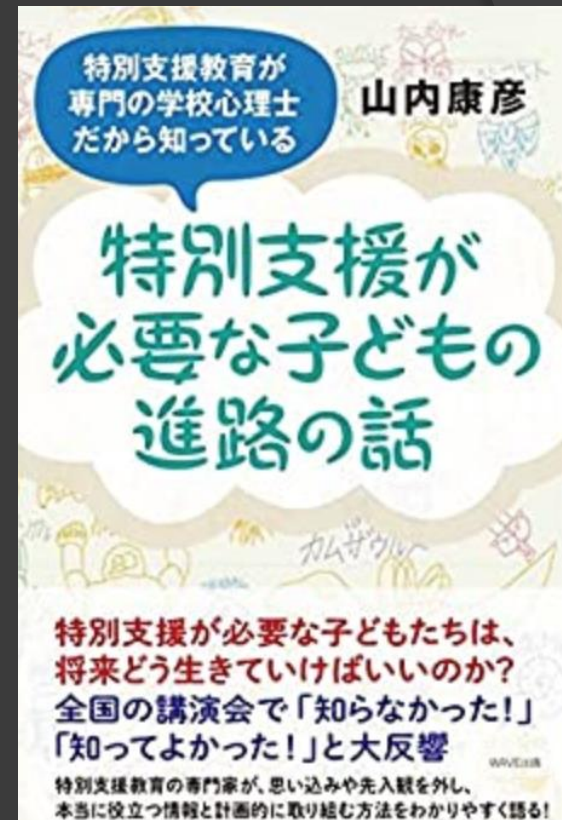
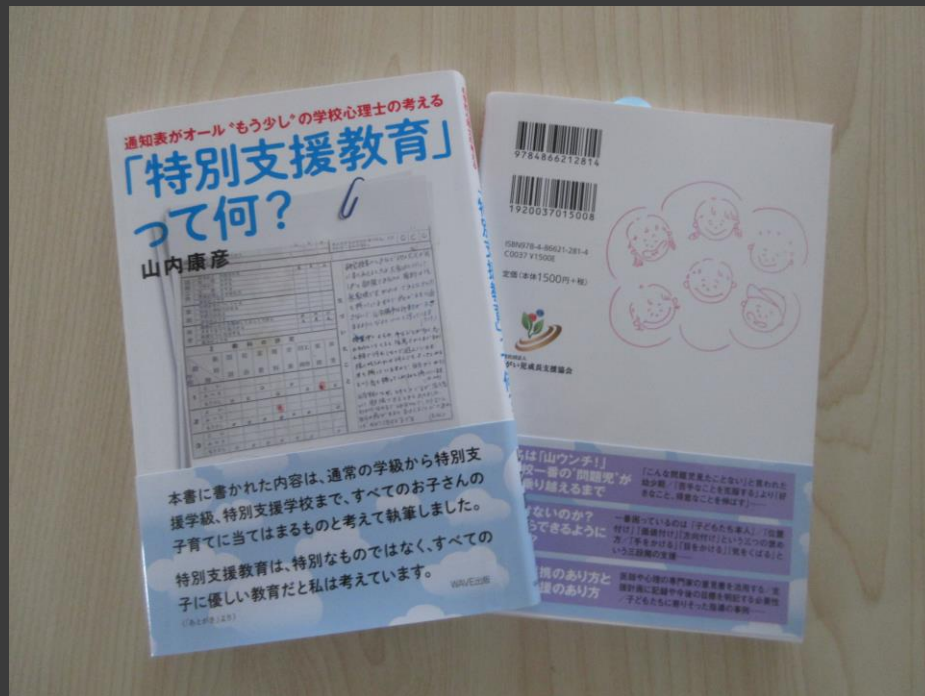
◎専門機関の意見書

※医師や心理師、園長先生からの意見書

(例) 山内君は、発達障害の傾向があるために以下の配慮が必要であるとする。

- ①机列は最前列、先生の前
- ②隣は姿でお手本を示すやさしい女の子
- ③計算は通常的量が良いが漢字練習は少なく
- ④係や当番の仕事は、わかりやすいもの 等

ご清聴ありがとうございました 無料個別相談会を開催！



ご紹介です 大好評 山内の出版物 《WAVE出版から発売》
書店・アマゾンで購入可 (「山内康彦本」で検索してください)